



☆ 3月4日（木）44回生1年7組 JICA 関西訪問 感想（一部抜粋）

研修ノートから、思ったこと、感じたことを抜粋で載せてみました。この訪問がいろいろなことを考えるいい機会になったようで良かったです。これからこれをつなげていきましょう。

自分たちは今、国際教養コースにいますので、グローバルな視点から物事を見れるようにすることが大事だと思います。そうするにはまず、相手の立場に立って同じ目線で考えることが必要だと思いました。メディアなどで流れている情報がすべてだとは思わずに、もう1歩深いところに入り込んで、表面ではなく内側から考えられるようにしたいと思いました。

今は行動として助けになることができなかったとしても考えを深めて、それを将来さまざまな形で行動に帰られたら世界にプラスできる存在になると思うので、SDGsのようなアイデアを持ったり、他の人の意見をきいて解決策を出したりすることが今私たちにできる身近なことだと思いました。

私がいま不自由なく生活できているのがどれだけ幸せなことか、感謝して生きていこうと思いました。そして、どこかで海外に行くことがあったら少しでも助けてあげて、少しでも幸せになれるような工夫を考えていけたらなと思います。

とてもよい体験になったと思います。海外の国を支援するといっても様々な形態があったり、アフリカの貧しい国や地域に住んでいる人たちも一生懸命に幸せに今を生きていることを知ることができた。自分が今後、実際にどこか海外の国へ行って現地の暮らしを体験してみたいと思いました。

今回のお話を聞いて、貧しいから不幸せということではないということを改めて感じました。メディアに取り上げられているものばかりではなく、今回のような形でお話を聞けて良かったです。

JICA の活動はただただ大変なだけでなく、もちろん活動していてうれしかったこと、楽しいこと、改めて気づかされることがあったりと、すごく自分のためにもなる活動だと思いました。私はもともとそのような活動にも少し興味があったこともあって、英語を勉強したいと思いました。ボランティア活動もあって、英語をより学べる LAC コースに来て、今日のような体験ができればいいなと思っていました。なので、自分の漠然として将来やりたいことが少し具体的になったような気がします。

今の世界の国際状況を聞いて、これまで自分が知っていたことは表面上のものだということを感じ知らされたし、今の日本のこの環境は特別なものだとも痛感した。初耳のことが多くてとても勉強になりました。

ワークショップのプロジェクト立案で、援助の大変さを知りました。自分の中でこうしたいと思ったところは多かったのですが、たくさんのお金や時間が必要で援助するというのは大変だと思いました。問題を解決することも大切だけれど、良いところを伸ばすこともまた、大切なんだと気づくことができました。

「私たちのイメージで勝手に貧しい人々は幸せではないと勘違いしている」がとても印象に残っています。

知らないことばかりでした。LACの一員として、これからはいろんな視点からもっと国際的なことを考えて、他の人たちにも伝えられるような人になりたいなと思いました。

ガーナのことを知れたことはもちろん、自分の将来についても考えさせられました。相川さんは日本の常識とは異なる世界を体験し、地球の裏側の人とのつながりや人に感謝される喜びを感じたとおっしゃっていて、私も何かできることをしたいという思いが強くなりました。また、ワークショップでは LAC のみんなの意見を聞けて、本当に学びが深まったと思いました。本当に本当に良いクラスだと改めて感じました。

幸せとは誰かが決めることではなくて自分が決めることであって、お金持ちでも貧しくても幸せは世界に平等にあるのではないかと私は思いました。だから、自分の思いこみで物事を決めつけるのはやめようと思います。

世界には様々な文化があり、まだ未知なる部分もあった。それを知ることも異文化交流といえるところを感じた。

☆みんな、ガーナとマラウイの国旗の色がそれぞれ何を表しているか、覚えてるかな？



赤、黄色、緑、★



黒、赤、緑、太陽